

地域のシンボル タブノキ守る

讃岐財田駅前、有志ら汗



枝の落下防止のため腐った枝などが切り落とされたタブノキ。2日、三豊市財田町財田上

JR讃岐財田駅（三豊市財田町財田上）の駅前広場にあるタブノキの巨木が衰え、枝が落ちる恐れが出てきたため、2、3両日、枝切りや支柱の設置作業が進められた。地元住民らが今後、地域のシンボルとして保全活動を進める。

このタブノキは、県が「香川の保存木」に、市が天然記念物に指定している。樹齢700〜800年と伝わる。高さ約9メートル、枝張りの範囲は四方に約18メートルある。

地元住民によると、かつてタブノキの周りは子どもたちの遊び場で、盆踊りや映画上映の会場にもなった。出征や進学・就職で古里を離れる際にはここで記念写真を撮ったという。

三豊市によると、昨年7月に県内に接近した台風6号の風雨で枝の一部が折れた。樹木医にみてもらったところ、内部が腐って枝葉を支えきれなくなりつつあることがわかったという。

枝切り・支柱設置

木を残したいという地元の有志が今年3月、「タブの木会」（重信厚会長）を結成して保全に乗り出した。植樹や自然保護活動を応援しているNPO法人瀬戸内オーリーブ基金（土庄町）、市、JR四国などが協力することになった。

2日は、依頼を受けた造園業者が不要な枝を切り、会のメンバーら約30人が、切り落とされた枝葉を運び出した。3日には枝を支える柱を立てた。今後、土の状態を調べて樹勢を回復させる方法を検討する。

重信会長は「地域の人たちのタブノキへの思い入れは強い。周辺の清掃や樹勢の見守りをしていきたい」と話した。

（石川和彦）